

①「卒業後、知り合いからウチで働いてくれと言われている」
②「卒業後も現在勤めているアルバイト先で働きたい」など、
個々の事情がある生徒は、その路（みち）に進むという選択も「あり」です。①のように「知り合いの会社」の場合を「縁故」、②のように「自分で見つけた会社」の場合を「自己開拓」と言います。

今回のテーマ

＜「縁故」や「自己開拓」でもいいの？＞

※ 以後、「縁故」と「自己開拓」をまとめて「縁故」と表記します。

I 将来のことを見据え、「正社員」なら積極的に考えよう。

- ① 「正社員」と「アルバイト」では、たった数年間で、大卒と高卒以上の賃金格差が生まれます。
- ② 再就職の際、「アルバイト」は、職歴（職業経験）になりません。
- ③ 新卒応援ハローワークなら、求人票はすべて「正社員」です。

II 「正社員」なら「縁故」は、逆におすすめとなるケースも！

- ① 「縁故」の利点は「あなたの個性を熟知したうえでの採用」であるということです。
- ② 「縁故」の欠点は「雇用条件が曖昧になりがち」ということです。
- ③ ハローワークでは「縁故」に対し、「求人票（採用者決定済）」を提出させることで②の欠点を解消させる方策を採用している。

III 結論！（「縁故」の話が、自分にとっても良い話であるならば！）

- ① 企業に「求人票（採用者決定済）」をハローワークに提出してもらう。
- ② 「求人票（採用者決定済）」の提出後に、その企業に応募する。
- ③ 「求人票（採用者決定済）」を作ってくれる企業であれば「縁故」は積極的に検討しても良し！